

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0426
施設名	松中保育園
施設所在地	立川市一番町5-8-25
法人名	社会福祉法人 昭島愛育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の探求

<テーマの設定理由>

当園には楽器が沢山あるが、「教える」という意味合いで使う事が多かった。自発的な興味関心を引き出していくこと、子どもの気づきを大切にしながら保育を進めることを意識した時に、どのようなテーマが良いか検討をした結果、身の回りにあふれている「音」がテーマにしやすいと考え設定した。

2. 活動スケジュール

年間計画参照

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

紙などの消耗品、様々な楽器、少人数で遊べるテーブル等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

年間の予定に沿って自然の音に耳を澄ますという体験を取り入れたり（風の音、雨の音、雷の音、水の音、様々な生活音に耳を澄ませるなど）、様々な楽器に触れていくなかで、音への興味関心を引き出し、ひいては楽器演奏などにつなげていけるような取り組みを年齢に応じて重ねていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

幼児になると、様々な活動を通して「音階」を理解して子ども立ち同士で教え合う姿まで発展していった。乳児も、お兄さん、お姉さんたちが使っている楽器で「遊びたい」と思う姿が読み取ることができ、実際に手に取るととても喜んで音を鳴らしたりして親しむ姿があった。保育士は子どもの様子を見て、次にどのような活動を展開したらよいかよりも、一緒に子どもと楽しむ姿が多く見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもに教え込むというよりも、年齢に応じた楽器の使い方さえ知らせると、子ども達同士で順番を作ったり、遊び方を考えたりすることが分かった。小さいクラスでも、言葉こそ出さないが、「やってみたい」という意欲があれば、自発的に手を伸ばし能動的な姿が多くみられることが分かった。「音」の探求は、自然の音に耳を澄ませる、生活音に耳を澄ませる事も大事だが、様々な楽器を取り入れて親しむ方が取り入れやすかった。